

## せせらぎ通り商店街と地域住民との「縁結び」

まち塾

地域コミュニティの回復が  
まちの魅力を生む

### ○せせらぎ通り商店街と地域住民との「縁結び」

せせらぎ通り商店街では、地域住民との「縁結び」をテーマに、3店舗で「まち塾」を開講する。個店が持つ魅力を起点に地域住民との新たなつながりを築き、まちの魅力を生み出したいと考えている。



【縁結びの神:貴船明神】

### ○「灯台下暗し」の地域住民ニーズをつかむ

観光客も多く、市内全域からの集客力も高いせせらぎ商店街にとって、近隣の地域住民のニーズはこれまでなかなか把握しづらかったというのが実情である。今回、まち塾であらためて地域住民と接点を持ち、相互に気づきが得られる機会としたいと考えている。

### ○北陸新幹線開業のタイミングだからこそその地域コミュニティの重要性

3月の北陸新幹線開業を控え、金沢では観光客対応に焦点が当てられている。一方で観光客に焦点が当てられれば当てられるほど、地元客の重要性を意識する声を耳にする。せせらぎ通り商店街では、まち塾を通じて、このタイミングだからこそ地域コミュニティの重要性を再考したいと考えている。

### ○地域住民からも、観光客からも愛される商店街のモデルケースを目指す

せせらぎ通り商店街は、自然・歴史・文化の探訪とショッピングが同時に楽しめる北陸を代表する商店街であり、地域住民からも、観光客からも愛される商店街のモデルケースを目指す。

### ○まるで外国の洒落た小径

通りに流れる鞍月用水は、もともとは灌漑用、さらには菜種油を作るために利用されていた。明治に入り菜種油だけでなく精米等の動力として、多くの水車が回るようになる。いつの間にか用水に蓋がされ駐車スペースとして利用されていたが、1995年、「見える用水」として生まれ変わった。せせらぎ通りの両側に、思わず入ってみたいくなるような素敵なお店がひしめきあい、用水沿いの土地に惹かれて集まった人の思いが共鳴しあっているかのように、通り全体がひとつの心地よい洒落た雰囲気形成している。



【鞍月用水】

## ■まち塾を開講する「オヨヨ書林せせらぎ通り店」とは

### ○町屋を活用したノスタルジックな古本屋さん

オヨヨ書林せせらぎ通り店は、大正時代に鉄工所として使われていた町屋を改装しており、「少しだけタイムスリップしたような・・・」「一人旅で知らない街を訪れたような・・・」そんな感覚を味わうことができる古本屋さんである。



【オヨヨ書林】

### ○幅広いジャンルの本と多彩なイベント

店内には、文芸、思想、社会科学、絵本など幅広いジャンルの本が並んでいる。懐かしい雰囲気の内では、演奏会、展示会、トークイベントなど多彩且つ個性的なイベントを定期的に行っている。



【店 内】

### ○オーナーの佐々木さんのお気に入り「絵本」

様々なジャンルの本が並ぶ中で、オーナーの佐々木さんのお気に入りは「絵本」である。佐々木さんは、絵本には、ストーリー性だけでなく、絵の美しさ、ことば選び、色使いなどに、絵本の楽しみ方があると言う。

### ○地域児童へ「絵本や紙芝居の楽しさ」を伝える

佐々木さんは、地域の児童へ「絵本や紙芝居等、本の楽しさを知ってもらいたい」との思いがまち塾開講へのきっかけとなった。若者の読書離れと言われている事もあり、本から聴く言葉によって、本の世界を楽しむきっかけを提供できたらと言う。幼少期の絵本の読み聞かせが、その後の子どもの本の読書量に大きな影響を与えている。

### ○プロの朗読小屋「浅ノ川倶楽部」と連携～定期開催～

藩政時代、金沢市を流れる浅野川河原には多くの芝居小屋が建ち並んでいた。しかし大衆の生活に溶け込んでいた古き良き劇場文化は、メディア等の普及により衰退した。平成17年4月に劇場文化が盛んであった尾張町に常設の朗読小屋(朗読小屋浅ノ川倶楽部：主宰 高輪真知子 氏)を開設、県民市民参加型の朗読講座を開講し朗読者の育成や公演活動、地域特有の文学の魅力幅広く紹介し発信している。今回、まち塾の目的に理解を頂き、商店街と連携しながら共に活動を図っていく。



【朗読小屋 浅野川倶楽部】

### ○まち塾で提案する強み・魅力とは

町屋を活用した懐かしい雰囲気の内では「絵本のライブハウス」という新しいスタイルで絵本の魅力を伝えていけることが当店の強みである。

また、同市内で活動する朗読小屋浅野川倶楽部を地域資源連携ととらえ、まち塾を開催することを今後の当店の強みとしていく。

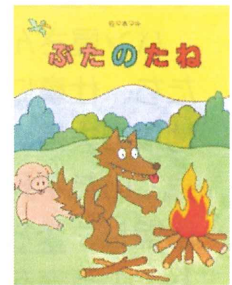
**【まち塾】平成27年3月2日（月）10：30～11：30**  
**絵本で縁結び・絵本の読み聞かせと紙芝居実演**

テーマ 絵本で縁結び・絵本の読み聞かせと紙芝居実演  
講師 オヨヨ書林せせらぎ通り店 店主 佐々木奈津 氏  
開講日 平成27年3月2日（月）10:30～11:30  
内容 ・絵本（著者：佐々木マキ）の読み聞かせと解説  
・紙芝居「いもほり藤五郎のはなし」  
語り 朗読小屋浅野川倶楽部（池本玲子 氏・中野繁子 氏）



【佐々木奈津 氏】

【前半】では、地域の児童とその家族に向けて、塾長おすすめの絵本2冊（著者：佐々木マキ）の読み聞かせと解説を行う。読み進めるなかで、児童やその家族の意見を聞きながら楽しく解説し、ストーリー性だけでなく、絵の美しさ、ことば選び、色使いなどの視点で絵本の楽しみ方を再発見していく。さらに、児童の年齢やお好みにあわせた絵本の選び方や楽しみ方も紹介する。



【後半】では、金沢で朗読活動をされている「朗読小屋浅野川倶楽部」の池本玲子氏・中野繁子氏を語り手に、金沢の民話「いもほり藤五郎のはなし」を紙芝居で上演し、紙芝居の魅力と地域に伝わる民話のおもしろさを体感してもらう。



### ○参加者は

- ・地域に住まいの児童とその家族、地域にある保育園、幼稚園の園児と関係者

### ○参加者へのメッセージは

- ・絵本のおもしろさ、奥深さを知ってもらう
- ・町屋を活用した店内で行う絵本の読み聞かせ、紙芝居の心地よさを感じて欲しい

### ○参加者に期待する次のアクションは何か

- ・今後のまち塾への継続参加、絵本に関する相談と購入、古本の買い取り依頼

### ○まち塾を実施するオヨヨ書林せせらぎ通り店の効果は

- ・親子連れ、保育園・幼稚園関係者の来店数増加
- ・地域住民からの本の買い取り依頼の増加

### ○商店街への効果は

- ・親子連れ、子供という新たな客層の発掘
- ・連携事例（朗読小屋浅野川倶楽部）による他商店への刺激

## ■まち塾を開講する「ひらみぱん」とは

### 〇2通りの意味を持つパン

ひらみぱんはパン屋さんだが、ただのパン屋さんではない。ひらみぱんの「ぱん」とは「パン」を意味するだけでなく、お鍋やフライパンの「パン」の意味もあり、フレンチベースの惣菜も豊富である。パンが販売されているスペースの奥にはカフェスペースがあり、朝はモーニングセット、昼は予めちびん、夜はフレンチベースの惣菜と自然派ワインが楽しめる。



### 〇まち塾をきっかけに～1月からモーニングセットをスタート～

パン屋さんは早朝から働く。お店の前を学校へ向かう子供たち、仕事に出かけるビジネスパーソン、朝の散歩を楽しむ地域の夫婦やまち歩きをする観光客が行き来する光景を毎朝見ていた平見氏は、せせらぎ通りの新たな魅力となることを目指し、まち塾をきっかけにこの1月から「モーニングセット」の販売をスタート。



### 〇まち塾で提案する強み・魅力とは

簡単に済ませがちな朝食をひらみぱん流に幸せな時間に変えるひと工夫で出来る朝食の作り方を伝えたい。

また、地域に住まいの方に、町屋を活用したお店の魅力や時間帯に応じたひらみぱんの楽しみ方を提案したい。

## 【まち塾】平成27年3月9日（月）11：00～12：30 パンで縁結び・幸せな朝食の時間・ひらみぱん流

テーマ パンで縁結び・幸せな朝食の時間・ひらみぱん流

講師 ひらみぱん 店主 平見高広 氏

開講日 平成27年3月9日（月）11:00～12:30

内容 ・ひと工夫でできる幸せな朝食の作り方（実演）  
・町屋を活用したお店の魅力と楽しみ方



【平見高広 氏】

まち塾では、ひらみぱん流の自宅で気軽にできるパン朝食の作り方を、実演を交えながら話しする。自宅にある食材を使いひと工夫するだけでできる美味しいパン朝食の作り方や、お店で提供する人気のモーニングセットの作り方、いつもの料理をランクアップさせるオリジナルパン粉の作り方、朝食を演出するテーブルコーディネート方法、など幸せな朝食の時間を過ごしていただくポイントを話しする。

また、地域に住む方にも、町屋を活用したお店の魅力や時間帯に応じたひらみぱんの楽しみ方をこの機会に知っていただければと考えている。

## ○参加者は

- 地域にお住まいの住民
- 近隣で働くビジネスパーソン

## ○参加者へのメッセージは

- 簡単に済ませがちな朝食を少しの工夫で幸せな時間に変えることができます
- ひらみぱんの時間帯に応じた使い方を提案します

## ○参加者に期待する次のアクションは何か

- モーニング営業時の来店
- パン、コーヒーのテイクアウト

## ○まち塾を実施するひらみぱんの効果は

- モーニングタイムの地元客比率の向上
- パン、コーヒーのテイクアウト販売増加
- 効率的なパンの販売

## ○商店街への効果は

- せせらぎ通りでの散歩、まち歩きのきっかけづくり
- モーニングタイム参入による商圈内における需要の掘り起し

## ■まち塾を開講する「味処高崎」とは

### ○新幹線開業を控え、ますます予約が取りにくい人気店

味処高崎は創業42年目を迎える割烹料理のお店。旬の味と金沢の郷土料理にこだわるとともに、金沢ならではの穏やかで親しみやすい接客で、地元客、観光客からの評判は高い。



【味処高崎】

北陸新幹線開業を控え、観光客からの問い合わせも多く、ますます予約の取りにくい人気店と言える。また、地域の方々にとっても、今まで以上に、親戚や知人・友人などの大切な方をもてなす場としての利用が見込まれる。

### ○奮闘する二代目店主

高崎正剛さんは父親が創業したお店を継いだ二代目店主。受け継がれた高崎らしさと二代目らしさを上手く組み合わせ、繁盛店を作り上げた高崎さんには、お客を喜ばせる喜びとお店を運営する苦労話があふれており、同年代の後継者には参考になる話がとても多い。

### ○まち塾で提案する強み・魅力とは

料理、酒、会話で大切な方を金沢らしくおもてなしするノウハウが当店の強みである。また、二代目として、創業者である父親から受け継いだもの、時代に合わせて変化させたもののバランスの良さが地元客、観光客からの高い評価につながっており、二代目店主の魅力自体が当店の魅力となっている。

## 【まち塾】平成27年3月11日（水）11:00～12:30 食で縁結び・頑張る二代目店主の金沢ばなし～本音で～

テーマ 食で縁結び・頑張る二代目店主の金沢ばなし

講師 味処高崎 店主 高崎正剛 氏

開講日 平成27年3月11日（水）11:00～12:30

内容 ・大切な方をもてなす「金沢の旬の味」講座  
・二代目店主の「笑顔と涙の奮闘ばなし」



【高崎正剛 氏】

【前半】では、遠方からの知人や友人など大切な方を金沢らしい料理でもてなすポイントや意外と知らない金沢の郷土料理や旬の味について話します。また、旬の食材の調理実演も予定している。

【後半】では、二代目店主の奮闘ぶりや苦労話として、父親とのコミュニケーション、二代目店主が考える集客方法、リーダーシップ、味処高崎のこれから、等なかなか聞くことのできない二代目店主が本音を語る。

## ○参加者は

- 地域に住まいの住民
- せせらぎ通り商店街及び近隣商店街の二代目経営者

## ○参加者へのメッセージは

- 大切な方を金沢らしくおもてなしするポイント
- 二代目として身内から上手に事業を引き継ぐポイント

## ○参加者に期待する次のアクションは何か

- 大切な方をもてなす場としての来店
- 郷土料理に関するちょっとした相談

## ○まち塾を実施する味処高崎の効果は

- 地域住民とのさらなるコミュニケーション強化
- 地域住民の利用比率の向上

## ○商店街への効果は

- 商店街内の二代目経営者の連携、後継者不足対策
- 会長を務める高崎さんのリーダーシップによるまち塾の継続

# せせらぎ通り商店街 アラカルト

## 【せせらぎ通り商店街】

せせらぎ通り商店街は、脇に鞍月用水が流れる古都金沢の情緒を感じる通りで、自然・歴史・文化の探訪とショッピングが同時に楽しめる商店街である。現在、飲食店、小売店等を中心に 64 店舗が加盟しており、金沢の中心街にありながら、用水がゆるやかに流れる穏やかな雰囲気は、地元客だけでなく、観光客からも評判が高い。

## 【せせらぎ通り商店街の特徴】

せせらぎ通り商店街の特徴としては、店の入れ替わりが少なく、また、大手チェーン店が少ない点にある。

金沢の中心街という好条件の立地であるが、立地に過度に依存しない集客力の高い店舗が多い。

## 【せせらぎ通り商店街が接する地域資源】

### ○貴船明神

古来より、悪縁を断ち、また縁結びのご利益があるとされており、このことからせせらぎ通り商店街では「縁結び」や「ご縁」をキーワードとした各種イベントを開催している。



### ○鞍月用水

鞍月用水は犀川上流部で取水し、金沢市中心部を通り、金沢駅北西部に広がる農地へ用水を供給する施設であり、用水が流れる音はせせらぎ通り商店街の名称の由来ともなっている。



### ○観光資源

周辺には、長町武家屋敷、尾山神社、近江町市場などの観光スポットがあることから、ホテルなどの宿泊施設も多い。

### ○公共施設等

周辺には、学校・保育園などの教育施設や病院などの公共施設が点在する地域である。また、金融機関などの大手企業が並ぶビジネス街からもほど近い立地にある。

## 【空き店舗】

空き店舗は 1~2 店舗のみであり、入居率は高く、その後の入居期間も比較的長い。

## 【利用状況】

地元客にとっては、昔から馴染みのあるお店と魅力ある新店舗がバランスよく融合した商店街として、用途に応じた使い方がされている。

また、観光客にとっては飲食や買い物の場所としてだけでなく、観光スポットを結びまち歩きゾーンとしても利用されている。



# ～まちなか商店学習塾とは～

## ○商店街の現状

現在、我が国の商店街数は、約14,900、その内石川県内は、約160の商店街が存在している。商店街は、戦後復興期から高度経済成長期にかけ地域に根ざし数多く形成され、「地域の顔」として、また地域コミュニティを形成する「場」として、なくてはならない存在として地域経済を担ってきた。

しかし、「規制緩和」による「郊外など大型店出店増加による中心市街地の空洞化」、「モータリゼーションの進展」、「商圈人口の減少」などの外的要因に加え「経営者の高齢化・後継者問題」、「店舗の老朽化」、「駐車場不足」、「商店街を構成する業種やその魅力が乏しい」などの内的要因により依然厳しい経営環境が続いている。年々、商店街の存在価値が小さくなり、大型店舗等の価格や品揃え、サービス、駐車場等の経営戦略に押され商店街の活気が失われている。



## ○チャレンジが変化を起こす～まずはきっかけづくり～

商店街活動で様々な事を「チャレンジ」することで、地域に変化が起き、それを重ねることで商店街の「活性化」に繋がる。何事にも「チャレンジすることから全ては生まれ」、小さなきっかけにより一歩を踏み出す。すると変化が起き、「新たな気づきや展開が生まれ」、次のステップへと「深化」する。そのうち目指すべきビジョンが見え、歩みが更に加速し商店街に活力が生まれる。

この様に、商店街の本物の価値を見つける為には、「この先どうなるか」ではなく、「自分たちがどうありたいか」と強くイメージし、ビジョンを持つことが根本である。



## ○「まちなか商店学習塾」とは

こうした背景の中、石川県中小企業団体中央会では商店街活性化策として、「まちなか商店学習塾」を通じ、地域(地域住民・来店客)と商店街との新たな関係性を創造し、地域が商店を深く知り、商店主が地域から気づきをもらい、商店と地域(地域住民・来店客)との関係性を回復・向上させ、商店街活動の活性化と新たな活動を【誘発】させることを目的に実施する。



## ○地域の「町会連合会」と連携

まちなか商店学習塾を実施する際、その商店街が属する「町会連合会」と連携し、開講する概要をニュースレターとして「回覧板」を通して地域に周知し参加を呼び掛け、地域と商店街との関わりを回復・向上させる。